

衣服は着用することによって、身体の生理機能に障害を及ぼしたり、また疲労を加えるものであってはならない。

近年、衣服はとみにフィット性を強調する傾向が強く見られるが、その結果として身体活動の機能の円滑性をなおさらにされているものと考える。

私共は、斯様な観点から、特に女性用スラックスに注目し、スラックスの機能的なゆるみについて検討を行った。即ち、ゆるみ寸法を大、中、小に定めたスラックスを制作し、非着用における身体皮膚表面動作時の状態をも観察し、着用動作時の写真撮影を行い、これと比較検討しながら、動作時のフィット性の変化を観察し、また、ゆるみの身体機能に及ぼす影響を知るために、運動負荷時のエネルギー代謝率、脈搏、及び連続最高血圧等について測定し、追完を行った。

その結果、下肢部皮膚の伸びは、膝部の伸びが大で、皮膚の縦伸びに対して布の伸びはこれに伴わず、また横伸びでは皮膚の伸びより布の伸びが膝部外側で多い。また運動負荷時の場合では、脈搏はゆるみ小の場合に早く、ゆるみ中がつづいて多く、ゆるみ大では大きな変化はみられなかった。運動負荷時の血圧は、ゆるみ小の場合に負荷直後の上昇が激しく、ゆるみ中及び大では負荷直後の上昇が緩やかで、ゆるみ小では、負荷終了後の血圧の回復時間は、中、大に比し延長がみられた。エネルギー代謝率については、ゆるみ小が、中、大のゆるみよりその値は高く、ゆるみの少ないものほど消費エネルギーの大きいことが明らかとなった。